

教科等の学習との関連を重視した「総合的な学習」のあり方に関する研究

教育振興室 宋 英子・又木 俊明・村上 昌志

【キーワード】 教科等の学習 「総合的な学習」 問題解決能力 学習の評価

「総合的な学習」は、その創設当初から教科等の学習との関連を図ることが求められている。

平成15年12月、学習指導要領の一部が改正され、「総合的な学習」の見直しが行われた。見直しの柱として、改めて、教科等の学習で身につけた資質や能力を相互に関連づける重要性が提起された。本研究では、教科等との関連を図った「総合的な学習」を構想、実践していくための学習計画を作成した。そのうえで、評価の内容と方法を考察し、その有効性を検証した。

研究の概要

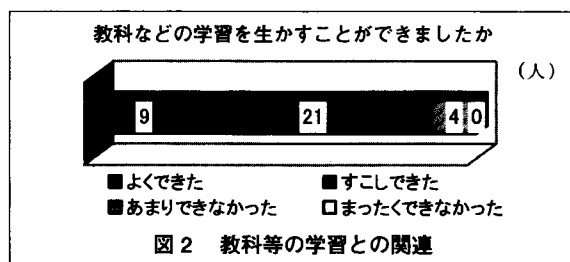
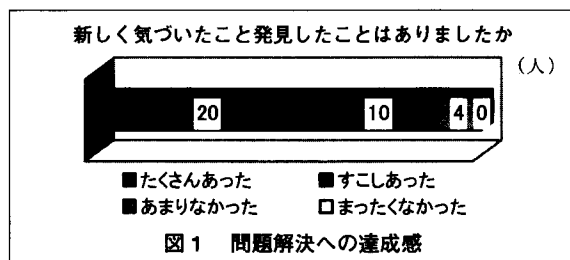
- 教科等の学習と「総合的な学習」との関連についての考え方
- 教科等の学習との関連を図った「総合的な学習」の学習計画の作成
- 評価の観点、内容・方法の工夫

上記の視点をもとに、小学校第6学年「福祉」の学習を実践した。まず、「福祉」の学習における子どもに身につけたい資質や能力を明らかにし、教科等の学習との関連を重視した単元目標を設定した。次に、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の4観点に沿って評価規準を作成し、評価の内容と方法に関する考察を行った。

学習では、児童に身につけたい資質や能力が育っているかを見取るための「学習カード」、

行動観察、自己評価、また、教科等との関連を意識づけるための「チェックシート」を用いた。これらの評価の内容・方法は、「福祉」の学習においては有効に機能したと考えられる。

また、「振り返りの学習場面」では自己評価を取り入れた。図1は問題解決への達成感を、図2は教科等の学習との関連に対する意識を尋ねた結果である。



研究を通し、教科等の学習と「総合的な学習」との関連のあり方が明らかになったのではないかと考える。

・指導者が教科等の学習との関連を図った「総合的な学習」の学習計画をもとに、児童に教科等との学習を意識づけていくことによって、児童は新しい課題に直面したときさまざまな知識や能力を総合化して発揮する。